

目指す学校像	○「確かな学力」と「体力」の向上が図れる学校 ○「安心・安全」で教育環境が整備された学校 ○望ましい人間関係が身に付けられる学校 ○美しい歌声が響く学校 ○地域に根ざした信頼される学校
--------	---

重点目標	1 確かな学力の向上、凡事徹底 2 教育環境の整備、特別支援教育・生徒指導・教育相談体制の充実、コミュニケーション力の育成 3 コミュニティースクールを中心とした地域とともにある学校づくり 4 学習指導の工夫・改善と充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標							実施日令和6年2月20日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<p>〈現状〉</p> <p>○R4 全国学力・学習状況調査における平均正答率は、国語・算数ともに全国平均と比較し平均的である。R4市学習状況調査において平均正答率は市平均をやや下回っている。</p> <p>○R4市学習状況調査において学びに向かう力に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ全体的にやや低い傾向にある。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○学習の基礎となる国語において表現力をより高めるために、国語科の授業実践を継続する。</p> <p>○3年間の研修を通して身に付いた表現力を他教科でも活かし、伝え合う力を育成する。</p> <p>○学力向上の基盤となる授業規律の定着や家庭学習の充実を図る。</p>	<p>確かな学力の向上</p>	<p>①ICTを活用した指導法の工夫・改善を学校課題研修の中心に位置づけ、個別最適な学習を行う。</p> <p>②スタディサブリなどタブレットを活用した家庭学習を実施する。</p>	<p>①教員アンケート「ICT機器の活用状況」について「週3回以上」が70%以上になったか。</p> <p>②タブレットを活用した家庭学習を週2回以上実施できたか。</p>	<p>①学校課題研修では全学年がICTを活用した教材研究や授業実践に取り組んだ。授業におけるICTの活用状況は全教員が活用したと回答した。3年生以上の児童アンケートでは「週3回以上活用している」の項目について肯定的回答が平均72.6%になった。特に5年生は82.2%、6年生は94.8%となり、活用状況は高かった。</p> <p>②スタサブなど家庭学習でのタブレットの活用は昨年度(週1回)より増加している。</p>	B	<p>・「個別最適な学び」や「協働的な学び」について基礎的研究を進めながらICTの効果的活用を通して、主体的に学び続ける児童の育成に取り組む。</p> <p>・低学年でもタブレットを整備し、活用を進めていく。</p>	<p>・中学校では学校全体で読解力向上に取り組んでいた。小学校でも、学校全体で取り組んでいるICTを活用した授業を通して身に付けた力を、いろいろな教科で活用することで学力向上につなげてほしい。</p> <p>・地域には隠れた人材が多くいる。学校で取り組みたいことがあれば、学校の教育活動の力になれると考える。</p>
	<p>○学習の基礎となる国語において表現力をより高めるために、国語科の授業実践を継続する。</p> <p>○3年間の研修を通して身に付いた表現力を他教科でも活かし、伝え合う力を育成する。</p> <p>○学力向上の基盤となる授業規律の定着や家庭学習の充実を図る。</p>	<p>学習指導の工夫・改善と充実</p>	<p>①学力向上カウンセリング学校訪問を実施し、学力調査の結果をふまえ、アクティブラーニング型授業を行う。</p> <p>②年間1回「学びのポイント(じしゃく)」を取り入れた研究授業を行う。</p>	<p>①学力向上カウンセリング学校訪問によって自校の課題を明確にし、授業改善のポイントを理解することができたか。</p> <p>②「学びのポイント(じしゃく)」を取り入れた研究授業を実施することができたか。</p>	<p>①10月、学力向上カウンセリング学校訪問を実施した。令和5年度の全国学テの結果から授業改善のポイントを理解した。</p> <p>②9月、全教員が「学びのポイント(じしゃく)」を取り入れた研究授業を行った。授業後、指導の工夫・改善について協議し、指導者より指導助言を受け、指導力を高めた。</p>	A	<p>・ICTの効果的活用を中心とした「学びのポイント(じしゃく)」に基づく授業改善を継続して行っていく。</p>	
2	<p>〈現状〉</p> <p>○学校評価児童アンケート「学校が楽しい」の肯定的評価は88.8%で良好である。</p> <p>○学校評価保護者アンケート「いじめ防止に努めている」の肯定的評価は72.8%で前年度より減少している。</p> <p>○学校評価児童アンケート「様々な相談に対して誠実に対応している」の肯定的評価は80.1%で年々向上している。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○児童や保護者が困った時や相談したい時、安心して相談、迅速に対応できる体制を強化する。</p> <p>○保護者や地域と連携し、通学路の安全対策に取り組む。</p> <p>○児童の交通安全等への危機意識を高め、実践力を身につけることができるよう安全指導等を徹底する。</p>	<p>特別支援教育・教育相談・生徒指導の充実</p>	<p>①定期的なアンケートや面談等を通して児童一人ひとりに寄り添った状況を把握し、いじめの早期発見・早期対応を図る。また、生徒指導委員会で共通理解を図り、組織的に対応する。</p> <p>②必要に応じたケース会議を開催したり、SCやSSWを活用したりして、組織を活かした迅速な対応を行う。</p> <p>③校内研修を実施し、教職員一人ひとりの生徒指導・教育相談・特別支援教育に関わる指導力を向上させる。</p>	<p>①学校評価保護者アンケート「いじめ防止に努めている」の肯定的評価が75%以上であるか。</p> <p>②学校評価アンケート「様々な相談に対して誠実に対応している」の肯定的評価が児童・保護者ともに80%以上であるか。</p> <p>③生徒指導・教育相談・特別支援に関わる研修会を実施することができたか。</p>	<p>①学校評価「いじめ防止に努めている」について保護者の肯定的評価は95.1%(前年度比+22.3%)となり目標値を達成した。</p> <p>②学校評価「相談対応」について保護者の肯定的評価は93.2%(前年度比+11.3%)となり目標値を達成した。児童の肯定的評価は78.2%(前年度比-1.9%)をやや下回った。</p> <p>③小中合同研修会(5月・1月)や校内研修(夏季休業中)で生徒指導・教育相談に関する研修を実施し理解を深め指導に生かした。</p>	B	<p>・教育相談委員会や生徒指導委員会等が組織的に機能し、必要な情報を共有し迅速に対応している。</p> <p>・今後も研修会を計画的に実施し、教職員の指導力を向上させ、組織を強化していく。</p>	<p>・地域の方が学習室で交流することで、子どもたちとの顔つなぎにもなり、より地域と学校との繋がりが濃いものになると考える。学校の教育活動に活かしてほしい。</p>
	<p>○児童や保護者が困った時や相談したい時、安心して相談、迅速に対応できる体制を強化する。</p> <p>○保護者や地域と連携し、通学路の安全対策に取り組む。</p> <p>○児童の交通安全等への危機意識を高め、実践力を身につけることができるよう安全指導等を徹底する。</p>	<p>安心・安全な教育環境の整備</p>	<p>①一斉下校や避難訓練など、児童が主体的に危機意識を高め、実践力を身につけることができよう指導の工夫・改善を行う。</p> <p>②施設・設備等の日常・定期点検等を行い、危険箇所の確認時には迅速に修繕等の対応を行う。</p>	<p>①学校評価保護者アンケート「安全指導に努めている」の肯定的評価が90%以上であるか。</p> <p>②学校評価保護者アンケート「環境整備に対する取組」の肯定的評価が80%以上であるか。</p>	<p>①2月、初めて水害に対する対応訓練を実施し児童の理解や意識を深めた。「安全指導」について保護者の肯定的評価は94.1%(前年度比+10.6%)となり、目標値を上回った。</p> <p>②着替え用カーテンレールの設置、施設設備等の安全点検(毎月10日)による修繕など、事務職員や用務員と連携し迅速に対応した。学校評価「環境整備」について保護者の肯定的評価は94.1%(前年度比+13.1%)となり、目標値を達成した。</p>	B	<p>・次年度も活動内容の工夫改善を図りながら、計画的かつ効果的な避難訓練や一斉下校を実施し、児童の実践力を高める。</p> <p>・体育館など老朽化による施設の修繕については、市教委に依頼し迅速に対応していく。</p>	
3	<p>〈現状〉</p> <p>○学校運営協議会において、テーマの更なる具現化に向け熟議を行った。</p> <p>○SSN連絡会や学校安全ネットワーク会議等を開催、保護者や地域と情報を共有して児童の見守りを強化した。</p> <p>○地域の祭りなどが開催されるようになり、本校の児童(合唱部)も参加した。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○地域の教育力を学校の教育活動に活かす。</p> <p>○学校運営協議会において学校・家庭・地域が取り組む新たな方策を明確化する。</p> <p>○学校運営協議会とSSNの一体的推進を図る。</p> <p>○学校運営協議会の取組を教職員や保護者、地域に情報発信できるようにする。</p> <p>○あいさつの励行について児童の意識を高め、実践する。</p>	<p>コミュニケーション力の育成</p>	<p>①児童会によるあいさつ運動など、元気なあいさつの継続指導を行う。</p> <p>②町探検など地域や地域の人材を活かした教育活動を実施する。</p>	<p>①学校評価児童・保護者アンケート「あいさつがよくできる」の肯定的評価が85%以上であるか。</p> <p>②前年度よりも地域や地域の人材を活用した授業実践を行ったか。</p>	<p>①児童会によるあいさつ運動や生徒指導部によるあいさつについての指導等により、「あいさつがよくできる」の肯定的評価は、児童87.5%(前年度比+4.4)保護者95.8%(前年度比+13.9)となり目標値を達成した。</p> <p>②大宮アルディージャやお囃子会の方々をお迎えした授業や大宮北特別支援学校等の交流などを実施した。</p>	A	<p>・学級や学年において、あいさつ指導の工夫改善に取り組んでいく。さらに、中学生によるあいさつ運動の実施など中学校と連携を図り、自ら進んであいさつする児童の育成に向けて取り組む。</p> <p>・児童の活動に対する意欲や理解が深まるよう地域の人材等を発掘し、効果的に学習活動に取り入れていく。</p>	<p>・挨拶ができていないような結果もあるが、保護者や地域から見ると、とてもよくできている。自信につなげてほしい。</p> <p>・地域との関わりに関する質問事項は、コミュニティースクールにとって重要である。この運営協議会でいろいろなアイデアを出していきたい。</p>
	<p>○地域の教育力を学校の教育活動に活かす。</p> <p>○学校運営協議会において学校・家庭・地域が取り組む新たな方策を明確化する。</p> <p>○学校運営協議会とSSNの一体的推進を図る。</p> <p>○学校運営協議会の取組を教職員や保護者、地域に情報発信できるようにする。</p> <p>○あいさつの励行について児童の意識を高め、実践する。</p>	<p>コミュニティースクールを中心とした地域とともにある学校づくり</p>	<p>①SSN連絡会や学校安全ネットワーク会議等を開催して情報を共有し、学校運営協議会との一体的推進を図る。</p> <p>②学校行事など教育活動を積極的に保護者や地域に公開する。</p> <p>③HPや学校便りを通して、学校や学校運営協議会の取組を発信する。</p>	<p>①学校運営協議会での熟議を通して、具体的な取組を設定し、実施できたか。</p> <p>②学校評価保護者アンケート「お知らせやたよりなどで学校の様子がよくわかる」の肯定的評価が90%以上であるか。</p>	<p>①学校運営協議会や学校安全ネットワーク会議、SSN会議などで情報意見交換を行うことができた。学校運営協議会では「いじめ防止」について熟議を行うができた。</p> <p>②授業参観の他に、学期ごとに学校公開を実施した。人数制限をせずに運動会などの学校行事も公開した。学校だよりには「小学校金融教育」など具体的に教育活動を掲載して保護者や地域に発信した。「お知らせやたよりなどで学校の様子がよくわかる」の肯定的評価は、保護者93.4%(前年度比+2.1%)となり、目標値を達成した。</p>	B	<p>・学校HPの更新について担当を位置づけ、学校の様子を迅速に保護者や地域に伝えるようにする。</p> <p>・学校運営協議会のマネジメントによる取組を検討し実施する。</p>	

4	<p>〈現状〉 ○ICT 活用による授業実践に個人差が見られる。 ○一人一主任・分掌主任、ペーパーレス化や会議時間の短縮等業務改善、時間外勤務時間の削減を進めた。</p> <p>〈課題〉 ○教員の I C T 活用力を高める研修を実施し、授業での活用頻度を増やす。 ○全教員による年間 1 回以上の研究授業を継続するなど計画的な校内研修を実施し、教員一人ひとりの指導力を向上させる。</p>	<p>教員の授業力の向上と働き方改革の推進</p>	<p>①教員の I C T 活用力を高めるために、計画的な校内研修を実施する。 ②年間一人 1 回以上の研究授業を行い、指導を受けるなど授業力を高める。 ③教材研究や学級事務のための時間を確保し、効率的に業務を行う。 ④定期的に働き方改革推進委員会を開催し、意識改革と業務改善を行う。</p>	<p>①学校課題研修や学校指導訪問を活用し、全教員が指導の工夫・改善を行うことができたか。 ②働き方改革委員会を開催し、業務改善を行ったか。</p>	<p>①学校課題研修では学校課題推進委員会において各学年の進捗状況を確認しながら、学年ごとに ICT を活用した教材研究や授業実践に取り組んだ。 ②指導訪問を活用し全教員が ICT を活用した授業の工夫改善に取り組み、指導力を向上させた。 ③④教員の時間外在校時間（4 5 時間以内）の月平均は、11 月 80%以上を達成するなど、効率的な業務改善が図られた。</p>	B	<p>・ICT の活用力や生徒指導・教育相談等教員の資質向上につながる研修を計画的に実施し、効果的な情報を共有しながら指導力を高めていく。 ・働き方改革推進委員会を活用し、業務改善について検討を重ねていく。</p>	<p>・Sola る一むの運営については先生方で行っていると聞いている。先生方の負担軽減のためにも Sola る一むの見守りは地域の力をぜひ利用してほしい。 ・地域との密な連携には学校地域連携コーディネーターの力が不可欠であるため、日頃からコミュニケーションを取っていききたい。</p>
---	---	---------------------------	--	--	--	---	---	---